

ザンクトガレン大学 留学体験記



国際・公共政策大学院
公共経済プログラム 2023 年修了
2022 年 9 月～2023 年 1 月 派遣
MM さん

IPP 一年次には経済系のコア科目と合わせて国際関係の授業を履修し、ケンブリッジ大学の学生との共同プロジェクトに参加する機会を得ました。海外の学生と協働し刺激を受けたのをきっかけに留学を決意しました。



留学先に選んだスイスは欧州中央に位置し、4つの公用語を持つ連邦制国家です。多様な背景を持つ人々が共存する社会維持のために、多文化主義が尊重され、自主自立を重んじる文化が浸透していると感じました。大学内においても、財政管理や企画、産学連携、建設計画などが学生自身の手で営まれ、多くの裁量を与えられていることに大きな驚きを覚えました。





ザンクトガレン大学は経営・経済学に強みを持つ、実践的なカリキュラムに立脚した大学です。理論的な理解に加えプラクティカルな思考が求められ、財政界の実務家との交流機会も多く与えられました。今なお続くウクライナ戦争をテーマにした授業で、政策の実現可能性に重きを置いて議論し、実際にウクライナ前首相の前で政策提言のプレゼンを行ったのは大変良い経験でした。

未曾有の困難と対峙するためには、既存の知識を踏襲するだけでは足りません。山積する社会課題を前に、多様なアイデンティティや利益関係を有する集団間で合意点を見出す作業は、苦悩や困難が伴います。だからこそ自由闊達に議論し、柔軟かつ創造的に思考する事が求められます。留学先の議論を通じたコミュニケーションを徹底し、学生を一人の個として尊重する環境が、これらの能力の研鑽を促進していると感じました。



留学中に共に困難を乗り越えた友人らとは、今も密に連絡を取り合い、情報交換をする仲です。



卒業後は、外資系証券会社にてファイナンスの道を歩みます。留学経験で培ったものを活かしつつ、金融業界からより良い社会形成のために献身したいと考えています。

留学は心身共に負荷のかかるイベントですが、得られるものはその苦勞を差し引いて余りある程です。一人でも多くの後輩の皆様が留学に挑戦するのを応援しています。

